

## 編集後記



とうもんの会理事長  
名倉光子

地産地消がお題目のように唱えられ、活動を続けるうちにそれが当然であった時代をい出しました。舅や姑から聞いた浜の賑わいや、暮らしぶりも心に残ります。県下にある水田地帯も、命をかけた治水事業があったからこそだと知りました。

高度成長の波は食文化を洗い流し、家庭の中に残る行事食なども失われつつあります。その時代を生きた贖罪ではありませんが、「伝え、残したい」という思いは日に日にくなりました。

とうもんの里と位置付けた、南遠州地区の食材と食文化について、少しでも多くの人見ていただける冊子を作り伝えたい。その思いが届き、県の緊急雇用創出事業の採択いただき、優秀なスタッフがそろい今回の発行となりました。

多くの方々の協力により、たくさんの取材が出来、アンケートによる調査も306人声が集められました。南遠州の食と呼ぶのはおこがましいのですが、その片鱗でも感じていただけたら幸いです。

この冊子を読み物だけで終わらせたくないという思いから、とうもんの里・食文化研究会を計画したところ、御賛同いただける方々とともに平成23年度設立の運びとなりました。今後の食文化伝承に少しでも寄与できることを期待して、お礼の言葉に代させていただきます。

感謝

聞き取り調査に多くの方々の協力を得ることが出来ました。「こんな昔のこと、あんたら若い人が聞いたら笑っちゃうに」と恥ずかしそうに言います。「何もなかっただね～」と前置きし、豊かな自然の中で育った思い出を生き生きと話してくれました。涙の出るような苦労話もありましたが、「あんときの（苦労の）おかげで、今何があっても笑って暮らせる」とおっしゃっていました。

豊かな時代に生まれた私たちは、何かどこかに忘れ物をしてきたような気がします。せめて節目節目を大切に迎えることで、その忘れ物が見つければとおもい、子どもと行事食を作り始めました。

冊子作りに関わって、多くのことを学ぶことが出来たことを感謝しています。ありがとうございました。

村松みか



この冊子作りに関わる機会を得て、改めて食の大切さを実感しました。取材中にお会いの方々の多くが伝統を大切に、先祖代々続く行事をこなしている姿を見て、食と行事にても切れない密接な関係にあるということを知りました。

以前は忙しさを理由に外食、ファストフードで済ますことが多く、食べることを大切にいませんでした。取材中にさまざまな料理を頂きましたが、そのすべてが懐かしく、素朴で美味しく満足できるものでした。子供の頃に、祖母や、母が同じように食を大事にしてくれたということ思い出させてもらいました。

人、物、情報にあふれた現代ではその波にのまれ、大切なものを見失っている気がしますが大切なものは日々の生活の中にこそあるのだと、この地域の方々に教えていただきました。ありがとうございました。

河合宏一

作成：NPO法人とうもんの会  
〒437-1305 静岡県掛川市山崎233  
Tel：0537-48-0045  
Fax：0537-48-0020  
URL：http://www.toumon-s.jp  
E-mail：toumon@pub.kakegawa-net.jp  
発行：静岡県中遠農林事務所  
Tel：0538-37-2292  
（平成21年度緊急雇用創出事業）  
発行日：平成23年2月

